

IV 系統的な指導（小学校の授業モデル）

中学校での学習に効率的につなげるためには、学習指導要領やそれぞれの校種の教科書を見ておくことが大事です。今回は、中学校第1学年の「読むこと」の「(1)エ 自分の考えの形成」につながる授業を紹介します。



1 単元名（教材名）	つながりの中で 「シカの『落ち穂拾い』—フィールドノートの記録から」（光村1年）
2 目標	文章と資料（図表・グラフ）の関連や役割や効果について自分の考えをもつことができる。

授業充実の3ポイントを踏まえた学習過程	学習活動	時間(分)形態	指導上の留意点
<p>[目標の明確化]</p> <p>1 興味関心が生まれる導入</p> <p>視点1</p>	<p>1 3つのモデル文を読み比べて、伝わり方を考える。</p> <p>① 文字だけのもの ② グラフだけのもの ③ 文字とグラフの入ったもの</p>		<p>○ 考えを説明するために資料が有効であることを確認するために、ワークシートを用いて3つのモデル文を読み比べて、考えさせる。【ワークシート】</p>
<p>2 課題（問題）意識の焦点化</p>	<p><モデル提示のよさ></p> <p>・ 子どもに気付かせたいことについて、比べられるように複数のモデルを提示することで、学習が焦点化しやすくなる。</p>		
<p>3 学習課題・めあての設定</p> <p>4 解決の予想と見通し</p>	<p>2 課題を焦点化する。</p> <p>3 学習課題を設定する。</p> <p>資料には、どのような役割や効果があるのだろうか。</p> <p>4 課題解決の見通しをもつ。</p>	13 一斉	<p>○ 資料の役割・効果に注目させるために、前時に作成した本文のみの冒頭部分に合う図表を確認する。</p> <p>○ 課題解決に見通しをもたせるために、学習の手順を確認する。</p>
<p>[山場の工夫]</p> <p>5 自力解決による最初の考え（仮説）の構築</p>	<p>5 学習課題に対する自分の考えをもつ。</p> <p>(1) 小見出しに合った図や表を選ぶ。</p> <p>(2) 図や表を選んだ根拠になる部分に線を引く。</p>	10 個	<p>○ 自分の選んだ資料と根拠になる部分に関連付けさせるために、いろいろな資料の中から本文に適した資料を選ばせる。</p> <p>○ より効果的な資料を選ばせるために、関係のない資料も含めて、比較させる。</p> <p>○ 自分の考えをより確かなものにするために、本文の中から根拠や理由を明らかにして説明させる。</p>
<p>6 考えの交流（学び合い）</p> <p>視点2</p>	<p>6 考えの交流をする。</p> <p>(例)</p> <p>・ 図は、イメージを膨らませることができるね。</p> <p>・ グラフは一目で変化や数の大きさが分かりやすいね。</p> <p>・ 表は整理されているから、一目で数値などが分かりやすいね。</p>	10 小集団	<p>【対話的な学び】</p> <p>○ 自分の考えを基にグループで交流させ、互いの考えを比較し、共通点や相違点に着目しながら話し合い、結論を導き出せるようにする。</p>
<p>7 自力解決による最終的な考えの構築</p>	<p>7 グループで出した意見を全体でまとめ、自分の考えを確認する。</p> <p>「食物にふくまれるエネルギーの量が多いことが分かった」とあるから栄養価の比較が分かる表はこの部分だ。</p>	10 一斉	<p>○ 全ての資料の確認をした後、資料から分かる事実について理解を深めるために、小見出し「仮説の検証」のどの部分に挿入すればよいかを話し合わせる。</p>
<p>[確かめ見届け]</p> <p>8 学習のまとめ</p>	<p>8 学習のまとめをする。</p> <p>文章に資料を関連付けることで、文章のみの説明よりも分かりやすくなる（役割）。また、筆者の意見を支える根拠になる（根拠）。</p>	4 一斉	<p>○ 本時の学習を確認するために、前時と本時の完成した掲示物を見比べ、分かったことをノートにまとめさせる。</p>
<p>9 振り返り</p>	<p>9 本時を振り返る。</p>	3 一斉	

【コアティーチャーネットワークプロジェクト国語科部員】

眞邊笑子（小宿小）、堀之内陽子（小湊小）、宮田真也（赤木名小）、玉井祐介（大柵小）、久保昌意（岡前小）
 梶雄樹（名瀬中）、森享子（朝日中）、勝康義（阿室中）、吉永恵理子（喜界中）、和田慶子（伊仙中）
 入佐俊和（奄美市教育委員会）、石川雅仁（大島教育事務所）

授業力向上リーフレット 国語科編

=H29コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「かごしま学力向上プログラム」の一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。大島地区で課題のある単元や指導法に焦点を当てていますので、ぜひ、参考にして日頃の授業に生かしましょう。

I 授業の概要

- 1 単元名（教材名） 説明の仕方を見つけ、話し合おう「天気を予想する」（光村5年）
- 2 目標 筆者が表、写真、図、グラフなどの資料を用いて説明した意図やその効果について理解するために、文章と資料を対応させたワークシートを基に、理由や根拠を明確にして読むことができる。



なぜ、この単元を選んだのかな？

「鹿児島学習定着度調査」の結果（県の平均正答率との差）から

観点・領域	小5		中1		中2	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
話すこと・聞くこと	-2.0	4.0	0.9	-4.2	-3.5	-3.2
書くこと	-1.3	1.1	-0.5	-5.1	-4.7	-3.4
読むこと	-0.5	0.2	-2.0	-2.0	-1.6	-2.9
知識・理解	2.0	1.5	-3.2	-5.6	-0.4	-3.2

※ 「話すこと・聞くこと」領域については、昨年度授業モデルを作成した。



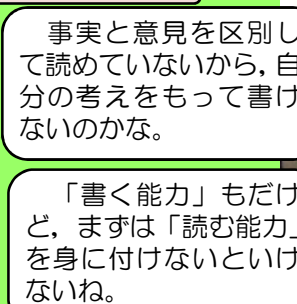
「H28 鹿児島学習定着度調査」の問題の分析等から

「書く能力」と「読む能力」が低いのはなぜかな？

小5 5二

次の条件で文を書きましょう。

- ① 1文目にグラフから分かることを、具体的な数字をあげて書く。
- ② 2文目に話し合いの様子から、学級に本好きな人が多いということが分かる内容を書く。
- ③ 書き出しの言葉に続けて40字以上70字以内でまとめる。



事実と意見を区別して読めていないから、自分の考えをもって書けないのかな。

「書く能力」もだけど、まずは「読む能力」を身に付けられないからね。

「書くこと」と「読むこと」の指導事項を整理して、どんな授業にするか考えよう。

「書くこと」の指導事項の系統性

	第5学年及び第6学年	(中)第1学年	(中)第2学年
記述	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いて書くこと。	ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を、明確に書くこと。	ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。
	エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。		

「書くため」には、自分の考えをもたせることが必要

「読むこと」の指導事項の系統性

	第5学年及び第6学年	(中)第1学年	(中)第2学年
自分の考えの形成及び交流	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。	エ 文章の構成や展開、表現の仕方について、自分の考えをもつこと。	ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
		オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。	エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や経験と関連付けて自分の考えをもつこと。

自分の考えをもたせるためには、「読むこと」の指導も充実させることが必要

「書くこと」と「読むこと」を関連付けた授業づくりをすることが大切です。



授業に何が足りないのかな？

	小5	中1	中2
先生の説明を聞く	22.5%	32.3%	35.1%
自分の考えを文章にまとめる	8.6%	5.5%	5.2%
自分の考えや資料をもとに話し合う	8.8%	4.5%	3.0%

教師の説明を聞く授業が多いと感じている児童生徒が多いね。
自分の考えを表現したり、友達と根拠を基に話し合ったりする授業への改善が必要だね。
「対話的な学び」を実現させるように工夫することが大切だね。

国語科は、各教科等の基盤となる言語能力を育成する中心的な役割を担う教科だよな。
他教科等の学習にも生かせるように、様々な言語活動を通して、児童生徒一人一人が、主体的に自分の考えを伝え合おうとする意欲を高める授業を工夫する必要があるね。



II 授業づくりの視点

どんな指導をしたら、ねらった力が身に付けられるかな？

授業づくりの視点

【視点1】 教科の内容について
大島地区の子どもたちが苦手とする「読むこと」「書くこと」の領域・内容について、重点的に指導する授業になっているか。

【視点2】 対話的な学びにするための工夫
子どもたちが主体的・対話的な学びをするための効果的な活動を授業の中でやっているか。

III 授業モデル（オープンサポート教科フォーラムで模擬授業を実施）

それでは、授業づくりの視点を踏まえて、平成29年度コアティーチャーネットワークワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

授業充実の3ポイントを踏まえた学習過程	学習活動	時間(分)形態	指導上の留意点
【目標の明確化】 1 興味関心が生まれる導入	1 前時の学習内容を振り返る。	2分 一斉	○ 課題意識をもたせるために、第1時からの学習内容をまとめた紙板書を掲示し、それを基に話し合わせる。
			<p>視点1</p> <p>＜紙板書のよさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元全体の流れを確認することができ、学習の見通しをもてるので、国語の学習に必要感をもって臨むことができる。 これまで学習したことの要点が一目で分かるので、既習事項を生かして本時の学習に臨みやすくなる。

2 課題(問題)意識の焦点化	2 学習課題を焦点化する。	2分 一斉	○ 学習課題を焦点化させるために、表、写真、図、グラフの資料を活用して文章を分かりやすくしていることに目を向けさせる。
3 学習課題(めあて)の設定	3 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どんなどきにどんな資料を使えば、文章が分かりやすく伝わるのだろうか。 </div>	2分 一斉	○ 単元のねらいを踏まえさせるために、本時では資料を活用した説明の仕方について考えることを確認する。
4 解決の予想と見通し	4 解決の見通しをもつ。	2分 一斉	○ 表などの資料を活用する意図と効果について考えやすくするために、表などの資料を説明している文章にサイドラインを引くことを確認する。
【山場の工夫】 5 自力解決による最初の考え(仮説)の構築	5 自分の考えをもつ。 (1) 資料と対応する文章に線を引く。 (2) なぜその文章にその資料を入れると分かりやすくなるのか考える。	5分 個	○ 筆者が表などの資料を用いて説明した意図やその効果を整理しやすくするために、ワークシートを準備する。
6 考えの交流(学び合い)	6 考えを交流する。 ・ 友達と交流 ・ 全体で交流	18分 小集団	<p>視点1</p> <p>＜ワークシートの工夫＞ 教材文を入れることで、自分の考えの根拠を叙述と照らし合わせながら読みやすくなる。</p> <p>＜交流活動に入る前の手立て①＞ 交流活動に入らせる前に、ポイント(交流の視点)を説明することで、交流の目的がはっきりする。</p> <p>＜交流活動に入る前の手立て②＞ 交流活動に入らせる前に、自分の考えをしっかりとらせる。そのために、どのようにして自分の考えをもつのかを具体的に説明したり、十分な時間を確保したりする。</p> <p>＜席を移動できる交流活動のよさ＞ より多くの考えと自分の考えを比較することができる。また、自分が欲しい情報を求めて、自由に交流することができる。</p> <p>＜考えの変容を可視化させる手立て＞ 青鉛筆を用いて書き加えさせることで、交流で修正・付加されたことが分かるようにする。</p>
7 自力解決による最終的な考えの構築	7 自分の考えを確認する。	5分 個	○ 分かったことを整理させるために、板書を構造化し、キーワードをはっきりさせる。
【確め見届け】 8 学習のまとめ	8 本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・ 数値を強調したり、変化や量を説明したりするときには、表やグラフを使う。 ・ イメージがつかみにくいときには、図や写真を使う。 </div>	5分 一斉	○ 分かったことを整理するために、表、写真、図、グラフそれぞれの効果的な使い方について、キーワードを使ってまとめさせる。
9 振り返り(自己評価 相互評価)	9 本時の学習を振り返る。 10 次時の学習内容を確認する。	4分 一斉	○ 本時の学習を振り返るために、ワークシートに自己評価と感想を書かせる。